

C-65 僧服に関する研究(その二)-形態的
大阪女子短大 弓削公子

目的 前報においては、僧服について文献による歴史の見地から、その由来を報告したが、本報は、形態的な面からの実態調査及び考察を報告する。

方法 京都、奈良市内の社寺、僧服メーカーの実地調査と文献による検討。

結果 僧服の中でも、特に「袈裟」は一般人の服装と異なり、その撲扱は法令で定められており、時代別、各宗派別、階級別にはその類似性は少なく、縫製方法については、ほとんど差異はみられなかった。色、材質、及び礼服用から略服用に至るまで非常に細かく区別されているところは、あくまで伝統を重んじながらも、時代に即応した見地に立って、衣生活を正しく考証したものがあつて、それがうかがわれる。